

（事例検討の主な意見）

◆この事例の方が今以上に自立するためにはどのようにしたらよいか、アイデアはありませんか。

◇理学療法士：難しい事例ですが、結構こういう方は自分も関わっているなど印象を持ちました。支援の仕方としては、①認知症の人ができること、できないことを明確にして支援していく。②徘徊予防や見守りシステムなど持ち歩いてもらうなど機械を使って支援する。③働きたい方には、「宅老所いぶき」のような就労プログラムを取り入れた施設で働くことがよい。就労の受け皿が色々あることが理想だと思う。

◆認知症の方が誰かの支えがあれば働ける、役に立てるというところで意見交換できませんか。

◇居宅介護支援事業所：本人にとって仕事の意味は何なのか。賃金が、やりがい、承認欲求、それを深掘りして仕事のマッチングになるのかなと思いました。

◇ケアマネ：私のケースでは脳出血の後遺症で要支援 2の方がいます。東京に遊びに行くお金を稼ぎたいということで、行政と相談して就労支援 B で進めようと相談しましたが、とにかく就労先が少なく、本人はパソコンを使って片手だけでできる仕事をしたいと思っていますが、現状、公共交通機関を使って自分で職場に行けなければ職はない、迎えに来てくれる IT 関係の仕事はないという状況にあります。結局お金を稼ぎたいので全く経験のないパン作りの仕事に見学に行ってみようという所で止まっているところです。

◆家にいる人を外に送り出して、誰が支援していくかという所で、こんなことがあったらいいと思うことは…。

◇ライフドアすわ：ライフドアすわでは「認知症カフェえがお」を毎月第 3 火曜日に開催していますが、認知症本人はもちろん、介護をしている家族、専門職、認知症カフェに興味のある地域の方など様々の立場の参加者がいます。この事例の本人や介護する妻が認知症カフェに参加して、認知症について知ってもらう、どんな対応をすればいいか知ってもらうきっかけになればいいかなと思いました。また、とても元気な方なので、認知症カフェに認知症の方でもボランティアで活躍できるかもしれないと思いました。

諏訪市ではないですが、認知症の方が地域で活躍することを大切にする地域があり、街の花壇の手入れ、地域の防犯パトロール、近所の掃き掃除などボランティアをすることで認知症の方と地域とつながっている所があるという情報があるのでお話しさせていただきました。

◆やりがいという意味でボランティアというのもいいかと思いましたが、それに関連する意見はありますか。

◇社協ボランティア担当：家でできるような作業ボランティアや、ボランティアセンターに通いで顔をだしてもらって古切手の整理などのボランティアの手作業を案内することができると思いました。また、末広に誰でも集えるスペース「みんなの広場ゆめひろ」がありますが、ここには場所を開ける当番のボランティアの方もいて、シニア大学の卒業生や在校生が地域との関りを持ちたいということで活動しているので、この事例の 70 歳くらいの方なら、毎日通いで、そこで交流や活躍がきるのではないかと感じました。

◇高齢者福祉課：認知症基本法の施行にともない、国の計画を踏まえて市の計画をつくっていくところですが、認知症の方の意見を聞きながら、認知症の方でも地域の中で働ける環境整備を、また民間企業と連携しながら働ける状況を整えていく施策を市の計画の中に盛り込んでいきたいと考えています。

◆総括(ライフドアすわ副センター長)

高齢になっても、認知症があっても本人がしたい、できるようになりたいということ、どういうふうにつけていくかということだと思います。介護サービスでやろうとしても、本人のやりたいことがすべては賄えないということ、皆さんの発言を聞いて思いました。介護保険の目的は自立した生活を送ることなので、そこを目指して何でもサービスで満たしていくのではなく、介護保険から卒業していくことを再認識し、本人が何を言いたいのか、何をやりたいのかを時間をかけながら探っていくことが必要だと思います。

